OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合 原 一 夫　TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20　前 田 茂 夫　TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成１６年８月（2004年）No.４６４

公開映写会へ向けうれしい悲鳴

会長　合原一夫

今年のＯＭＣ映像フェスティバルは、１０月３日（日曜）中央会館講堂と決定しており、これからその準備に取りかかるところです。発表作品は昨年８月例会より先月７月までの作品、総本数 164 本の中から凡そ１５本を選び出すことになります。今年は例年以上に作品が多く１例会当りの出品数が１３．６本となっています。

会員諸氏のウデも上がり、立派な作品が増えています。しかも 10 分を越すものの割合が増えてきています。これら充実してきた多数の作品の中から、どうして１５本を選びだすかうれしい悩みが出て参りました。ＯＭＣ映像発表会も数をかぞえて今年は４４回目になります。この長い伝統を支えてきたのは、良い作品をできるだけ多くの方に観てもらう、ということでした。８ミリフィルム時代から、発表会をひとつの制作目標にして年１本は少なくとも良い作品を作りたい、との願いで取り組んできた歴史のあるＯＭＣです。今年もさすがＯＭＣだと評価して頂ける作品をそろえたいと念願しております。その結果、不本意ながら一部の方の作品は選に漏れて辞退して頂かなければなりません。大変心苦しいことです。

いずれにしろ、作品選定は会員諸氏が納得できる公平さと透明性が必要です。幸い全作品を安居さんがＤＶＤに記録されていましたので、それを借りて全作品を拝見し、一作ごとに「撮影」「構成」「編集」「録音」と評価項目をわけて５点法で採点し、その上にボーナス点（新人の方など）を加えて評価、上位得点順に上映作品候補作をリストアップします。その上で役員会等で最終決定する計画です。大変手間がかかりますが、皆さんのご努力を無にしない様頑張ります。長い暑い夏が続きます。

８例会のお知らせ

８月例会は２８日（第４土曜日）１８時より、難波市民学習センター（JR 難波駅ＯＣＡＴビル４階）にて開催します。残暑厳しい折ですが会場は冷房が効き過ぎのようですので何か上衣になるものが必要かも。とにかく楽しい月一度の例会にどうぞお越しを。

西村氏が全国コン入選

第 38 回東京アマチュア映像祭全国ビデオコンテスト受賞のお知らせをいたします。おめでとうございます。

入選　ネパールの行商人　西村光雄

■新入会員のご紹介

黒田敏彦　TEL　0743-53-6781

〒639-1101

大和郡山市下三橋町 419-10

秦　峰一　TEL　0743-52-2158

〒639-1007

大和郡山市台所町 226　近鉄前通り

以上お二人、よろしくお願いいたします。

7月例会のレポート

新潟や福井県では豪雨で洪水災害が報じられている反面、関西では雨が少なく例年にない暑さです。7 月例会日も暑い盛りでしたが会場の冷房は少しやり過ぎだと思われるほどで前月寒さで参ったので今月は上着持参しました。

さて今月は前月が撮影会作品公開審査月で一般作品の上映ができなかったせいか、出品数が 18 本の多きに達しましたが、時間の関係で 15 本の上映となりました。

司会、吉岡氏、書記、合原氏、デッキ係河合、岡本の両氏、受付兼照明係は宮崎さんと森口氏、以上の担当で進行しました。

■出席者：有村、江村、岡本、奥、上総、金子、紙本、河合、小竹、合原、進藤、関、玉井、華岡、藤原、前田、増池、松本、森、森口、森下、森田、宮崎、安居、吉岡、渡辺、黒田（新入会者）の 27 氏。

■上映作品（今月の講評担当：合原会長）

1．晩春の白川郷

増池　茂さん　　6分37秒

トップシーンは季節感を表現される意図でしょうか、渓谷の残雪の様子が出てきます。次におなじみの白川郷の合掌造りの里にカメラは入っていきます。観桜客が多く散策していて観光地らしい雰囲気がただよってきます。美しい映像でビデオスケッチとしてまとめられた作品でした。

2．清姫情炎（改々作）

岡本至弘さん　　11分30秒

この作品は昨年中央図書館で大阪アマチュア映像連盟の映像祭に出品されたものですが、この度熊野古道が世界遺産に登録されたとあって、多少手を加えて例会での再上映となったもの。何度拝見しても迫力ある映像は立派ですが、やはり伝説の話とお坊さんのお話がダブっているのはくどい気がします。太鼓の場面は迫力があってよいのですが、いいカットほど長すぎては逆効果になることも覚えておいてください。

3．凍れるとき（改題、改作）

河合源七郎さん　　7分37秒

この作品は２章から成り立っています。第１章は、流氷の海、冬の滝、つらら、氷の結晶、凍りつくような冷気がただよってきます。作者のねらいもこの”凍れる”情景を描写したかったのでしょう。ここは狙い通りでした。

続いて第２章は雪の降るシーンに移ります。渓谷に降る雪も冬らしい寒さを表現しています。ただ題名の「凍れるとき」は第１章はぴったりですが、第２章の雪のシーンはやゝ違うように思いました。またＢＧＭの笛も若干そぐわないようにも感じましたが、これは人それぞれの受け取り方でしょう。

いずれにしても立派な作品で今年のフェスティバル出品の有力な候補作です。

4．当麻寺

江村一郎さん　　6分21秒

江村さんにしては珍しく、ご自身の声でナレーションを入れた作品です。上映前の説明で、会場から「ほぉー」という声が上がりました。いつもの切れ味のよい江村作品とはどうも違う作品のような印象です。

まずオーバーラップが多いことです。いつもの江村さんはほとんどカットツナギだけの迫力ある映像がオーバーラップつなぎでは優しくなってきます。この作品では必要最小限の字幕により、ナレーションはやはり江村作品には似合わない様に思いました。ノイズが多いのも気になりました。原因を調べてみて下さい。

5．演劇二題

小竹　正さん　　9分00秒

舞台で演じられているプロの演劇を客席から撮影された記録です。

こういう作品は、何の目的で撮影し作品にするか明確にしてつくらないと、見ている人に欲求不満が生じます。

まず、ストーリーをそのまま伝えるには9分の間に2ツの話しをしようとしても省略に省略を重ねないと時間的に無理なので、中途半端なものになります。単に芝居の雰囲気を伝える程度でしかありません。次に、どこで、というのが判りません。後でお聞きしたところによれば、伊勢の戦国村にあった劇場で撮影された由。そうであれば、まず、戦国村の情景を紹介し、観光客も適当に入れて、会場の一部にこんな芝居小屋が架けられており興味を感じたので中を覗いてみた。それにしても観客が少なくてこういうお芝居を続けていくのも大変だろうな、といった感想でも述べてしめくくれば立派なアマチュアらしい作品になるのではないか、そんな気がしました。

6．米沢上杉まつり

吉岡貞夫さん　　12分00秒

過去3部作にわけて発表された米沢上杉まつりを、1本にまとめて集大成されたものです。大きな祭りなので、丁寧に見せようとすれば1時間に近い長編になることでしょう。これを12分に縮めるには、それ相応の思い切った切り取りで苦労されたものと思われます。出初式のところは現録に頼っていますが声がはっきりしないので、これでも見る人にとっては「長い」と感じるかも知れません。しかし、こんな大きな祭りを一人でよく撮影されたものと感じ入りました。

7．水掛け祭

有村　博さん　　7分32秒

有村さんのタイシリーズのひとつ。今回の作品は、チェンマイの変わったお祭りの風景。若者たちが観光客や通りがかりの人たちに向け、思いっ切り水をぶつける、という、日本では考えられないお祭りです。水はドラム缶などに入れ、氷で冷やしてあり水鉄砲やひしゃくで水を掛けるのですが、かけられた人も楽しんでいるようです。

こういうところにカメラを持っていくには、水中撮影なみの重装備が必要で、作者もちゃんと装備しておられました。もっとも身体の方が全身すぶぬれ、その様子を同僚が撮っていてその状況がよく判りました。楽しいチェンマイの祭りを楽しく拝見、ご苦労さまでした。

8．古川祭　第2部

奥　宏さん　　8分20秒

今年4月19～20日に行なわれた岐阜県古川祭りの記録。古川市は市町村合併運動で今は周りの町村と合併して飛騨市となっているところです。ここに古くから大きな祭りがあることは意外に知られていません。有名な隣りのまちの高山まつりが有名なので古川祭りがかすんでいるのかも知れません。大きな祭りで2日間にわかれて行われるので奥作品も第1部、第2部と分けられたのでしょう。始めに第2部を持ってこられたので、アレ、第1部はどうしたんでしょうと、とまどいを感じました。

内容は時代風俗行列、かたくり人形、子供歌舞伎、町内を練るしし舞いなど多様です。よく撮ってはありますが、話のすすめ方、作品構成が総花的でスケッチ風に終ってしまったのは少し惜しい気がしました。もっとも、こういう大きな祭りを作品に仕上げることは大変むづかしいものですが。

9．祇園放生会

森口吉正さん　　9分00秒

京阪四条で偶然通りかかってこの催しがあることを知り、急ぎカメラを出して撮影して来られたとか。それにしては、いい位置から、きっちりと撮られ、作品構成も狙いも的確です。さすが森口さんです。生き物を大切にする、という心から、生きた稚鯉を買ってきて、法要の後、巽橋（たつみばし）から川へ放してやるという催しというか、行事というか、その記録作品です。6月22日の日曜日にあったそうです。

10．御柱祭（川越し編）

紙本　勝さん　　10分00秒

5月例会でこの前編ともいえる作品を拝見しましたが、前編も迫力ある映像で、6年に1度の諏訪大社の御柱祭のスケールの大きさに驚いたことを覚えています。

この続編は、いよいよ巨木の御柱を、川を渡らせるというもので、前編以上の迫力がありました。何本かの巨木をそれぞれの

担当巨木の氏子たちが歓声をあげながら川を渡らせるのですが、全く、ショー化し、観ていて楽しいものがあります。1200 年前からの歴史ある祭り（行事）だそうですが以前の川越えはもっと素朴だったに違いありません。

こういう観客の多い大きな祭を一人で撮影されてこられた作者には脱帽です。あと「御柱建て」編が続くそうで楽しみです。

11. 街角の出逢い

山口さちよさん　8分40秒

関さんのお知り合いで鹿児島在住の新入会員のこれは正式な出品第１作です。クロアチアへ旅行されたとき撮影されたもので古城の様子から現地のさまざまな人の表情、街角で拾った情景、いろんなカットが出て異国情緒を奏でます。撮影もロングありアップありで編集も的確なので、よき師に恵まれた作者の上達ぶりに目をみはるものがあります。これからますます楽しみに期待される新人の出現に拍手！

12. クロスヒル（ワイド）

関　剛さん　8分30秒

この例会では二度目の上映で、ノンナレ作品で意図が伝わりにくいという第三者の意見をとり入れられたのか、タイトル前にコメントの文章が入りました。公開映写会に出品したいと再度の上映ですが、観ていて何か不思議な感情の沸く作品です。よくぞこれだけの十字架が集まったものと思われるほどの無数の十字架の山、悲しいときうれしい時、それぞれに多くの人が十字架をここへ持ってくるそうです。バルト海に面したリトアニアで撮影されたもの。狙いも構成もＢＧＭもさすが関作品だと感じ入りますが、少し引っ掛かるのは、ＮＨＫ放送の戦争場面の映像を挿入されている点です。使いたい気持ちは判るのですが、この作品の場合、せめて写真と効果音だけで意図が伝えられると思うのですが、皆さん、どう感じられたでしょうか。

13. 大河ボルガの残映

上総修一郎さん　14分10秒

豪華客船で世界旅行を楽しんでおられる上総さんの今回の作品は、モスクワ運河編です。海に面していないモスクワを海に通そうと、囚人たちを使って運河を作ったそうです。落差が 100 ｍもあるので６箇所の閘門を設け、船を通す仕組みということがナレーションで説明されます。船が運河を通るシーンが続いたあと、途中の町へ下りて、町の観光に移ります。異国情緒たゞよう珍しい町の雰囲気は見ていて楽しいのですが、教会での合唱の場面が延々と続くなど、作品のイメージが運河からすっかり離れてしまい、さて、この作品の狙いはどこにあったんだろうと少し疑問に思いました。またＢＧＭが全くマッチしていないと場内から指摘がありました。珍しい異国の情緒たっぷりの映像だけに編集、録音構成に再挑戦してみて下さい。

14. 生き物と話そう

安居利次さん　6分50秒

海遊館で泳ぐ魚をただ撮るだけなら誰でも手がけられますが、ひとひねりした作品を作りたい、との安居さんらしさが滲み出た作品です。今回は息子のお嫁さんに声の出演をしてもらい、魚側の声を、作者はクロマキーでご自分の顔を画面に出しておしゃべりをする、という趣向で、面白いアイデアですが、如何せん安居さんの顔の表情が硬く、ムードが出ません。むしろ声だけの掛け合いでよかったのではないか、と思いました。一方、声の出演をされた真知子さんの魚による声の使いわけのうまさは抜群で思わず拍手したくなりました。かなり素質のある方とお見受けします。

15. サバンナの動物

宮崎紀代子さん　4分00秒

ほおー、宮崎さんもケニヤへ海外旅行されたかと思いましたが、何と近ばの天王寺動物園で撮影されたものとか。天王寺動物園もリニューアルして自然の状態で見せるコーナーをつくってあるということです。なるほど面白い狙いなので、オリの中の虎などは入れずに、草原や樹の下にいる動物たちを、いかにもケニアで撮ったといわんばかりのカットでつなぎ、最後にドーンと種明しをするといった手法は如何でしょうか。

以上で上映を終りいつもの様に喫茶組と居酒屋組に別れて二次会を楽しみました。